



男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部・ダイバーシティ推進センター

2019年度（令和元年度）男女共同参画推進活動

2019年度に本学の男女共同参画推進活動は新たなフェーズに入りました。

4月より、本学は男女共同参画担当の副学長（男女共同参画推進機構長兼務）を置き、男女共同参画推進に向けての本学の姿勢をより一層明確にいたしました。また、7月には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に選定され、9月下旬（9月27日交付）より、本学が代表機関となり、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社と共にさまざまな取組を進めて行くことになりました（事業期間は2019年度から6年間）。また、協力機関として、奈良先端科学技術大学院大学、奈良県立医科大学、神戸松蔭女子学院大学、ワキ製薬株式会社、名阪食品株式会社などにも入っていただき、関西圏の女子大学、高専、企業が連携して、ダイバーシティのある研究環境の実現に取り組むことになりました。この事業を円滑に進めるために、男女共同参画推進機構の組織を核として、「ダイバーシティ推進センター」を立ち上げ、共同実施機関の連携のもと、さまざまな取組を実施しています。



2月27日（木）には、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のプログラム主管である山村康子氏をお迎えして、上記事業のキックオフシンポジウムを開催しました。基調講演の後、各機関が取組を紹介し、本事業を進めて行く決意を表明いたしました。

また、2019年度には新しく「奈良ゾンタクлуб理系若手女性研究者奨励賞」が設立されました。優れた研究をしている理系若手女性研究者を支援し、研究のさらなる発展を促すための賞で、奈良ゾンタクлубが本学の男女共同参画推進活動に理解を示され、寄附をいただき、賞の設立となったものです。今年度は1名の方が受賞されました。

これまでの本学の男女共同参画に向けた取組が評価され、期待が高まっていると感じます。優れた取組を本学の中だけに留めず、他の研究機関・企業にも普及させていく使命があると思います。令和2年度は、上記の事業の2年目を迎えます。多くの取組を予定しており、引き続き気を引き締めて進んで行きたいと思っております。関係者のみなさまのご理解ご協力をお願い申し上げます。

2020年3月

奈良女子大学副学長（男女共同参画担当）・男女共同参画推進機構長

春本 晃江

ダイバーシティ推進センター

奈良から 関西から 女性研究者の支援を牽引 ～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～
2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択に伴い、関連する取組を実施するために設置されました。



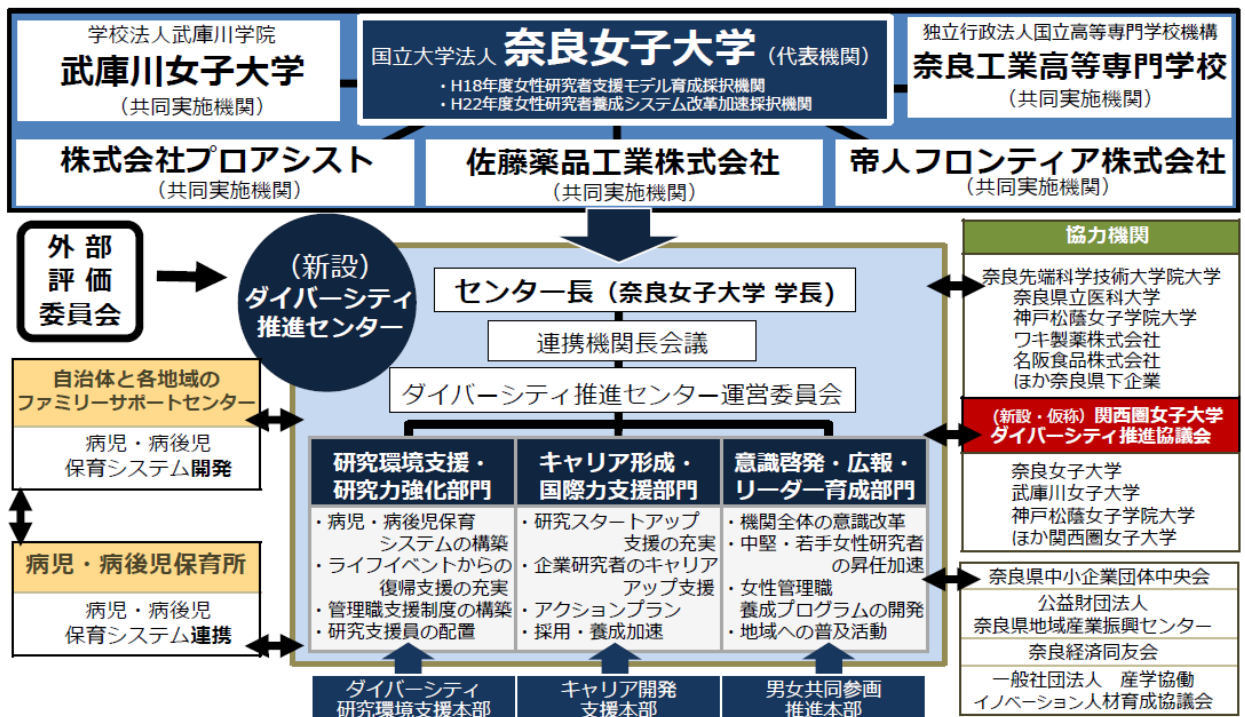
「ダイバーシティ推進センター」設置の目的

本学は代表機関として、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社（以下「共同実施機関」）との連携のもとで、2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。本事業では、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の改善やそれに向けた機関内の意識改革、女性研究者の裾野拡大、女性研究者の研究力向上、女性研究者の積極採用、研究中断した女性研究者の復帰支援、女性研究者の上位職への積極登用に取り組むとともに、これらの取組を通じて地域における女性研究者の活躍推進を牽引することを目指します。本事業を推進するために、新たに「奈良女子大学ダイバーシティ推進センター規程」（令和元年9月27日規程第39号）が制定され、「ダイバーシティ推進センター」（以下「推進センター」）が設置されました。

「ダイバーシティ推進センター」の構成

「推進センター」のセンター長は代表機関の学長です。迅速で確実な意思決定と強力なマネジメント体制が保証されます。「推進センター」には「連携機関長会議」と「ダイバーシティ推進センター運営委員会」（以下「運営委員会」）が設けられます。「連携機関長会議」は、センター長、副センター長、理事・副学長（研究・情報担当）、共同実施機関の総括責任者、共同実施機関の実施責任者によって構成され、事業推進のための情報共有や事業全体の実施に関する重要な事項が審議されます。「運営委員会」は本事業を確実に推進するため、センターの円滑な運営を図るためにおかれ、センター長、副センター長、センター員によって構成されます。

センターには、事業の企画・立案・実行のために、3つの部門「研究環境支援・研究力強化部門」「キャリア形成・国際力支援部門」「意識啓発・リーダー育成部門」がおかれ、男女共同参画推進機構の各本部、学内の各センター、総務・企画課、研究協力課、学務課と協力して事業を推進する体制となっています。実施体制図を以下に示します。



関西圏女子大学・奈良県下の大学・高専と関西圏企業における研究環境整備
高い研究力をもつ女性リーダーの輩出 関西活性化の推進・全国への波及効果

2019年度「ダイバーシティ推進センター」の活動

代表機関・共同実施機関では独自の取組を実施するとともに、推進センターにおいて3機関（奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学）実務者会議を開催して、進捗状況や今後の実施内容について意見交換を行い情報共有を図り、ダイバーシティ推進センターとしての取組を進めています。前掲の実施体制図にありますように、3つの部門「研究環境支援・研究力強化部門」「キャリア形成・国際力支援部門」「意識啓発・広報・リーダー育成部門」は、本学の男女共同参画推進機構の3本部と密接な連携を取りながら活動を行っています。従いまして、本事業が採択された9月以降の本学での取組は、3本部の活動報告と重なる部分がありますので、それは省略させていただきます。ここでは、新たに実施された取組等について紹介します。

ワークライフバランス支援相談室の共同利用

10月より、奈良女子大学で運用しているワークライフバランス支援相談室の奈良工業高等専門学校及び武庫川女子大学との共同利用が開始されました。

共同研究スタートアップ支援

代表機関・共同実施機関に所属する女性研究者が立ち上げた共同研究プロジェクトを支援することにより、女性研究者の研究の進展と更なる研究力の向上を目指すことを目的とする取組です。本年度は、できるだけ早く共同研究に着手できるように、これまでに（第7回異分野交流会まで）「異分野交流会共同研究シーズ発掘支援経費」に採択された研究グループを核とする共同研究グループを対象として募集し、審査の結果、2件の共同研究プロジェクトが採択されました。

特に優秀な女性研究者の顕彰と研究費支援

「ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」制度を整備し、審査の結果、2名の女性研究者が受賞しました。

研究力向上チャレンジ支援

本学の優秀な女性教員が大型研究費を獲得することにつながるための研究経費を支援する取組です。支援の結果が女性教員の顕著な研究実績につながることを期待されます。

女性研究者の研究力向上のための支援

科研費獲得に向けたセミナーを実施しました（9月25日）

女性教員の英語力スキルアップのための英語研修を開催しました（3月3日-4日、3月10日-11日）。

ドクター進学説明会

本学大学院博士後期課程修了者を招いて、ドクター進学説明会を実施しました（1月27日）。

キックオフシンポジウム「奈良から、関西から、女性研究者の支援を牽引 ～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～」開催

2020年2月27日（木）奈良女子大学記念館に於いて、キックオフシンポジウム「奈良から、関西から、女性研究者の支援を牽引 ～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～」が開催された。奈良女子大学 今岡学長、奈良工業高等専門学校 後藤校長、武庫川女子大学 河合副学長から挨拶があり、基調講演「ダイバーシティ・マネジメントの推進に向けて」（山村康子氏 国立研究開発法人科学技術振興機構 プログラム主管）が行われた。休憩の後、本事業の共同実施機関である奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社からそれぞれ、女性研究者の研究力向上、研究環境のダイバーシティ実現に向けての取組について紹介があった。活発な質疑応答の後、外部評価委員の立命館大学相馬芳枝氏から講評をいただき、奈良女子大学 藤原副学長からの挨拶によって閉会した。補助事業による目標を示し、目標達成のための課題についても確認でき、有意義なシンポジウムであった。なお、シンポジウム後の情報交換会は新型コロナウイルス感染症への対応により残念ながら中止した。



【お問い合わせ】 奈良女子大学ダイバーシティ推進センター

✉ diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp

URL: <https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>

男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体の男女共同参画への取組に対する貢献などを行っています。

地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域貢献事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関するさまざまなテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え、学び、広めることを目的とし公開講座を開催してきた。今年度は「男性の働き方、女性の働き方」をテーマとして、2回の公開講座を開講した。

地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第1回

「わたしを活かせる社会の実現を目指して ～すべては思い込みを捨てることから始まる～」

【日時・場所】 2019年11月14日（木）15：00～16：30 理学部会議室

【講師】 中根弓佳氏（サイボウズ株式会社 執行役員 人事本部長兼法務本部長）

【参加者】 24名

日本では、女性はライフイベントにより、社会復帰が難しく、働きたくとも働けない現状がある。ところが日本社会は労働人口が減少する一方、求人は逆に増大しており、人手不足が問題となっている。人手不足を解消するためには、働き手を増やす、ビジネスモデルを変える、業務効率をあげることが考えられ、女性に限らず多様な個性を活かすような働き方改革が必要とされる。それを実現するためには、私たちが持っているさまざまな思い込みを捨てねばならない。働く時間（裁量労働、残業なしや短時間勤務など）、働く場所（オフィス以外での就業）の選択、そしてそれを越えて、働かない時間の思い込みを捨てる（副業も可能）、またツールを用いてコミュニケーションや情報共有のしくみを改革する。これらの改革により、女性を含め多様な働き方を希望する人々の社会での活躍が可能となる。働く人ひとりひとりは個性が異なるのであるから、100人いれば100通りの働き方や制度があってもよい、公平性よりも個性を重んじて一人一人の幸福を追求することが大切であることを、ご自身のご経験から、またサイボウズ株式会社の取組を基に熱く語られた。会場には一般、大学教職員、学生が参加し、活発な質疑応答があって、今後の働き方を考えるきっかけとなった。



地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第2回

「パパの育児が世界を救う！？ ～男性の育児の今昔～」

【日時・場所】 2020年1月16日（木）15：00～17：00 佐保会館

【講師】 小崎 恭弘氏（大阪教育大学教育学部 准教授・NPO法人ファザリングジャパン顧問）

【参加者】 33名

日本政府は「女性活躍の推進」を政策の一つに上げ、2015年女性活躍推進法が施行された。それ以後年々女性の就業率は伸びてきているものの、非正規雇用の比率が高く、いまだ女性の社会での活躍は果せていない。日本の男性の育児・家事時間は他国に比べて著しく低く、女性の育児休暇後の社会復帰が困難であることと共にと考えると、女性の活躍推進と男性の育児・家事への進出は表裏一体である。「イクメン」という言葉が流行し、男性が育児に関わることが多くなってはいるものの、男性の家庭進出はなかなか浸透してきていない。そこには、「男性は仕事、女性は家庭」という社会の根深い意識がある。男性は長時間労働を強いられ疲れている。女性は家事、育児が過度の負担となり疲れている。そんな中で子供も追い詰められている。いずれも幸せではない。男性が家庭に進出することは、女性の社会での活躍を推進し、父親、母親、子供、そして企業や社会も幸せにできるはずである。また、男性が育児に参画することは、子供の認知発達が促進され、社会適応に優れ、情緒が豊かになるという面もある。男性の家庭進出を促すために、社会の意識改革と制度設定が必要である。男性の家庭進出は個人、家庭、職場、社会の変革につながるにちがいない。小崎氏はユーモアを交え、分かりやすい言葉で語られた。会場には子育て中の男性の参加もあり、活発な意見交換が行われ、有意義であった。



関西圏の女子大学の連携推進活動

女性研究者の環境整備や研究力向上と次代の優秀な女性研究者の育成のため、関西圏女子大学間連携による女性研究者共同研究支援を目指して、2014年に関西圏の5女子大学有志によりワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキンググループ会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。

2019年度は以下の3回のワーキンググループ会議が開催された。

2019年度 ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	会場	主な議題
第38回	1月17日	武庫川女子大学	第8回異分野交流会開催の打ち合わせ ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）への協力
第39回	2月2日	奈良女子大学	第8回異分野交流会について（開催とその反省）
第40回	2月21日	武庫川女子大学	第8回異分野交流会について（異分野交流共同研究シーズ発掘支援経費） 第9回異分野交流会の開催について

異分野交流会の開催

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究が実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催し、それ以後毎年開催してきた。今年度は第8回異分野交流会を奈良女子大学で開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。

◆第8回異分野交流会

日時： 2020年2月2日（土）12：00～16：40

会場： 奈良女子大学 コラボレーションセンター3階
Z306教室

テーマ： 「みつける」「ささえる」「つなげる」

参加者： 35名

【プログラム】

- 12：00 開会 あいさつ 今岡春樹 奈良女子大学学長
- 12：10 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）
- 14：10 フリートーク（発表者への質問など）
- 14：40 グループワーク
- 16：10 グループワークのまとめと講評
- 16：40 閉会

【発表者と演題】

1. 池谷知子（神戸松蔭女子学院大学）
「教科書の日本語と自然な日本語をつなげる ～自然会話における「～れば」の用法～」
2. 稲田愛子（武庫川女子大学）
「ソフトボール投・送球イップスの評価尺度—作成に向けた構成概念の検討—」
3. 織田恵輔（プール学院短期大学）
「幼児期におけるキッズバイクの使用経験と運動能力との関連」
4. 城戸千晶（奈良女子大学）
「健康寿命延伸に向けた住環境整備と住まい方に関する研究」
5. 黒木邦彦（神戸松蔭女子学院大学）
「古典的文法記述で支える日本語研究の国際化」
6. 須川真奈江（奈良女子大学）・星野聡子（奈良女子大学）
「高齢者の身体機能がQOLに及ぼす影響」
7. 田中郁恵（武庫川女子大学）
「非小細胞肺癌患者における免疫チェックポイント阻害薬の治療効果と腸内細菌叢との関連」
8. 矢田詩歩（奈良女子大学）
「新規ポリオキシエチレン系非イオン界面活性剤が形成する分子集合体の物性と構造に関する研究」



ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」(2006～2008年度)、「女性研究者養成システム改革加速」(2010～2014年度)において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。新本部では、共助支援及び理工農医保健系女性研究者に対する研究活動支援に加えて、ダイバーシティ化を目指して新しい支援の取組も展開しています。

教育研究支援員制度

教育研究支援員制度は、補助金の配分を受けて、研究に関する支援が手厚くなりました。この制度は、出産・育児・介護に関わる教員(男女を問わず)に支援員を配置する仕組みですが、男性の方にも利用していただいています。また、令和2年1月より、怪我や病気が理由の場合の教育研究支援員の配置もできるようになりました。奈良女子大学ではたらく教員の皆さまがライフイベントの中にあっても研究と家庭を両立できるように取組を進めてまいります。

2019年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月以降*
利用者数	6名	13名
支援員実人数	8名	19名

* 10月～3月 8名
11月～3月 4名
1月～2月 1名

子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声にこたえて、「ならっこネット」を運営し13年目を迎えた。専任(共助サポーター)による支援を行う「ならっこコース」と、利用頻度が少ない方も気軽に利用できる専任のいない「プチならっこコース」を利用者が選択することができる。

「ならっこコース」では、Webシステム「Webならっこ」が利用でき、効率よく依頼できる。また、安全で安心な支援を実施するため保険に加入し、本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」、ポストドクターには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されている。

2020年1月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は42名(支援される子どもの数59名)、登録サポーター数は83名である。1月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は140件で、うち120件が実施された。今年度は、「ならっこネット」の利用者の大幅な見直しを行い、お子様が中学生になられた方、退職などで連絡がつかなくなった方については、本部の判断で辞退とさせていただいたため登録数は減ったが、男性教員の登録が増えてきている。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行う支援システムで、運用10年目を迎えた。「集団託児」のほか、マンツーマンの「個別託児」が選べ、利便性を高めている。頻繁に利用される団体や部署には、「団体登録制度」をご利用いただき、毎回の手続きを簡略化できるようにしている。近年、イベント時に託児を設置することが多くなり、ニーズは確実に増えている。1月末時点で、今年度の「ならっこイベント」の依頼件数は34件、1月末時点で27件実施しており、のべ592名の子どもたちの託児を行った。



サポーター養成講座

子育て支援システムを安全、安心に運営するために、信頼のおけるサポーターを学内外で確保し、その質を高めていくことが必須である。その目的で、今年度もサポーター養成講座を開催した。

今年度の「サポーター登録説明会」では、本システムでのサポーターとしてのあり方や支援の具体的な内容を丁寧に説明することとした。1月末までに19回実施し、新たに27名が説明会終了後にサポーターとして登録した。

またサポーターとしての技能と知識を高めるための「ブラッシュアップ講座」として、下記の題目で6講座を開講した。

- ①ヘリクツに向き合う
～素直になれない心を聴く～
- ②保育中の応急手当はココカラはじめる!
- ③乳幼児の自己表現
～ことば・あそび・からだのチャンネルをつかって～
- ④乳幼児の事故予防とAEDを使用した一次救命
- ⑤体験! 保育の現場@奈良こども館
- ⑥特別講座

どうする? 保育中の急なケガや事故に救急対応!
～食事中・あそび中・午睡中の安全～

「ブラッシュアップ講座」は、毎年好評の認可外保育園での保育体験をはじめ、からだを動かすワークショップ・座学まで、ボランティアや子育て・孫育てに関心のある一般の方にも開かれており、今年度はお子様連れで参加できる講座だけではなく、⑥については初めて無料託児を設定した講座を用意した。お子様連れの参加者の方々から、謝辞をたくさんいただいた。



ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

3名のワークライフバランス支援相談カウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、学生・教職員からの相談に対応している。

思春期から更年期までの心と体の健康相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護に関する相談等、健やかにワーク・ライフ・バランスを保てるように支援を行っている。

相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更した。

今年度開催した「ワークライフバランス支援ミニ講座」では、「介護問題・介護制度についての知識や役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「生命の誕生・いのちを育むということに意識を向ける」をテーマに参加者で共有する場を設けたところ、関心のある教員・職員・学生の皆様に参加して頂き好評を得た。参加者同士和やかな意見交換の場となった。



情報の発信

本学の子育て支援システムの紹介チラシ「奈良女子大学の子育て支援」を新しく着任された教職員の皆様に配布した。また今年度は「ならっこネット通信」(メールマガジン)5回、「ならっこニュース」(メールマガジン)を16回配信、サポーター向け冊子「サポーター通信」を1回、「ワークライフバランス支援相談室だより」を2回発行した。

ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児支援室であり、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や子育て支援システム利用者のご家族、子どもを連れて来学された方などが利用できる。今年度は、長年の念願であった手洗い場の設置を行い、利用者やサポーターの方々に好評である。1月現在で85件の予約があり、うち76件の利用があった。保育園に預けていない1歳未満の子どもとゆっくり過ごしたり、子どもを室内で遊ばせながら一緒に過ごす利用者やご家族の方も多し。今年度は新しい利用者も増え、ますます需要が高まっている。



女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性教員にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生へも配信している。

2019年度(1月末現在)は、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、講演会案内等、29件の情報配信を行った。

研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業は、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」(2011年度より科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めている。また、2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を理工農系に加えて、医・保健分野へ範囲を拡大した。

2019年度研究活動支援事業の活動実績

◆研究スキルアップ経費支援

学内の理・工・農・医・保健分野の女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

2019年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	農学系研究者	医・保健系研究者
6件	6件	2件

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先:

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/j-kaikaku/> e-mail j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax 0742-20-3344 URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/> e-mail shien@cc.nara-wu.ac.jp

キャリア開発支援本部

2016年度より一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会の会員になり、大学院生、博士研究員を対象とした研究インターンシップや産学協働イベント、自己分析セミナー、進路に関する相談等を実施し女性研究人材のキャリア形成支援を行い、研究分野における男女共同参画推進を目指しています。

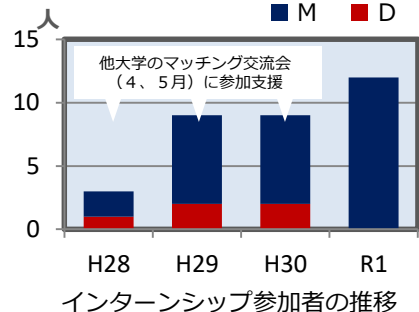
C-ENGINEの「研究インターンシップ」 12名をコーディネート

17の大学とリーディング企業37社によって構成される一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE)は「人の交流」「知の交流」を掲げ、研究インターンシップを推進している。オンラインシステムと、各大学に配置されたコーディネーターによる支援が特徴で、本学も2016年度から加入した。今年度は、6月5日に11社の会員企業を迎え、研究インターンシップのマッチングを目的とした交流会をはじめ本学内で開催した。奈良先端科学技術大学院大学の学生を交え、約60名の学生が参加した。

研究インターンシップには昨年度より3名多い、のべ12名(8社)が参加した。学内において交流会を実施したことによる影響が大きいと考えられる。

学生と企業の交流会@奈良女

6月 初の学内でのマッチング交流会



一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会 (C-ENGINE)

学生と企業の交流会

①奈良女子大学 2019.6.5 (水)

C-ENGINE会員企業11社の企業紹介や
研究インターンシップについての
情報を企業のみさんから
直接聞いてみよう!

参加者募集! 大学院進学予定の4回生も参加できます!

【参加企業】 京セラ株式会社 清水建設株式会社 住友電気工業株式会社
株式会社ダイセル 株式会社竹中工務店 一般社団法人電力中央研究所
株式会社巴川製紙所 パナソニック株式会社 株式会社電通製作所
三菱電機株式会社 株式会社村田製作所

日時: 2019年6月5日(水) 16:15~18:00(予定)
15:30開場 懇話会 18:00~19:00

場所: G棟 1階 G101教室

対象: 奈良女子大学 奈良先端科学技術大学院大学
博士研究員 博士前期 後期課程学生
大学院進学予定の他、40歳以下の方

内容: 1.大学紹介18分
2.C-ENGINEの説明
3.企業紹介と、インターンシップの紹介
4.懇話会

懇話会参加費用: 500円

参加申し込み: 参加コードから(要紙)、または
下記URLを各自のメールにてご連絡ください。

URL: <https://forms.gle/Wt4b7k3k3686868>

参加者は
自己紹介シートを
参加企業に渡せます

締切: 参加者5月17日(水)まで

研修数は、事前に「自己PR」
のアンケートを
サポートします

主催: 奈良女子大学 国立共同研究機構奈良先端科学技術大学院大学
後援: 奈良先端科学技術大学院大学 奈良先端科学技術大学院大学
研究開発イノベーション人材育成協議会 (C-ENGINE)

問い合わせ: 奈良女子大学 産学協働推進課 キャリア開発支援本部 H501
TEL/FAX: 0742-30-3572 コーディネーター: 0120-094-410 info@ceai.jp
E-mail: career@cc.nara-wu.ac.jp URL: <http://ccp.nara-wu.ac.jp/>

2019年度 C-ENGINE 研究インターンシップ実績 12人

所 属(専攻/コース/学年)	インターンシップ先	実施期間	テーマ
数物科学専攻(物理学)	M1 (株) リコー	7/8~7/26	クラウドベース組み込み・アプリケーションソフトウェアの開発
数物科学専攻(数学)	M1 (株) リコー	8/26~9/27	画像によるトレンド分析
化学生物環境学専攻(化学)	M1 (株) 堀場エステック	9/2~9/27	四重極質量分析計の開発
数物科学専攻(物理学)	M1 ダイキン工業(株)	9/3~9/27	水熱源VRV異電圧改装機のトランス取付に関する構造設計
住環境学専攻	M1 清水建設(株)	10/28~11/29	・木鋼ハイブリッド部材のパラメトリックスタディ ・木質材料の解析手法に関する検討 ・構造設計の基礎学習
住環境学専攻	M1 (株) 竹中工務店	10/28~11/15	ABW※執務室における光環境評価 ※Activity Based Working
生活工学共同専攻	M1 住友電気工業(株)	10/28~12/26	作業行動の見える化
数物科学専攻(物理学)	M1 三菱電機(株)	11/5~12/6	冷凍サイクルシミュレーションの予測精度に関する研究
数物科学専攻(物理学)	M1 三菱電機(株)	11/6~12/5	クラウドシステムの自動構築機能の検討
住環境学専攻	M1 (株) リコー	11/7~12/11	質感計測評価技術の開発
数物科学専攻(物理学)	M1 三菱電機(株)	12/3~12/13	高機能光センサ向け光源評価
数物科学専攻(数学)	M1 パナソニック(株)	1/20~2/21	生産活動で発生するデータの収集(IoT)、AI・ビッグデータ解析に関する実務を通じたデータ解析スキルの習得

C-ENGINE × 奈良女 研究インターンシップ・トークセッション2020

2020年1月20日に、標記タイトルでインターンシップ報告会を実施した。学生36名と会員企業等から8名(OG 1名、事務局2名含む) 教員5名が参加した。今年度の研究インターンシップ参加者8名の報告をメインに、C-ENGINE、キャリア開発支援本部からの取組の説明、このインターンシップがきっかけとなり就職に至ったOGや、参加学生の指導教員からのコメントが発表された。後半は、企業等の参加者を交えてグループトークを行った。トークの材料として、今年度C-ENGINEが定義し、導入したトランスファラブルスキルRISEを12枚の本学オリジナルカードにしたものを参加者に配布し、各自の関心度の高いスキルから序列化してもらった上で、相互に意見交換を行った。今後のプログラム参加へのモチベーションにつながる事が期待される。



トランスファラブルスキル「RISE」を研究・就活に活かすには

トランスファラブルスキル “RISE”

What's RISE?

研究を通じて培われる

Transferable Skills

転用可能な【=どこでもつかえる】12のスキル

培う場は 大学 インターンシップ 職場 (R&D)
 活かす場は 異分野の研究開発 あるいはビジネスでも
 研究から得られるのは ある分野に特化した「知識」だけではありません

Research Governance and Organization	研究遂行に関するスキル
Intelligence and Knowledge	知識・知的能力
Social Relationship	他者や社会との関係に係るスキル
Effectiveness	自己開発に係るスキル

C-ENGINEのインターンシップでの使われ方

開始時	インターンシップ中	修了時
関心のあるスキルを3つ選択、企業に伝える	指導担当者は、指導の際に配慮、意識する	修了時に、指導担当者から向上の程度を評価してもらう(評価書)
開始時における12のスキルすべての自己評価を記入	実習中の経験をスキルを結び付け、12のスキルで考えることで、自分の研究や考え、行動を客観的にとらえる。	12のスキルすべての自己評価を記入 4つの項目に対する感想を記入する => 記入した内容が洗練されていて、成長を実感できる (コーディネーターの感想)

(写真) 左上：インターンシップ報告 中上：OGからのコメント
 中中：教員からのコメント 左下：企業参加者等とRISEカードを用いたグループトーク 中下：グループトークの発表 上：(コーディネーターによるスライド) トランスファラブルスキルRISEについて

日経ウーマノミクスキャリアカフェ

2019年6月28日、ダイヤモンド電機で半導体開発に携わる、黒田幸枝さん(物理学科OG)をお招きしてセミナーと懇親会を開催した。(主催：日経ウーマノミクス事務局)

「生き生きと働くことは自分らしさを発揮すること」「いくつになっても人は新しいことを学び挑戦できる!」とエネルギッシュなお話をいただいた。懇親会は博士後期課程学生同士の出会いの場にもなった。



ドクターコース(博士後期課程) 進学説明会

2020年1月27日、記念館において4月からの新しい博士後期課程「人間文化総合科学研究科」に向けての説明会が実施された。

支援体制の紹介にも力点がつかれ、キャリア開発支援本部からは、トランスファラブルスキルにも触れ、支援の説明を行った。修了者の経験談の中にも、キャリア開発支援本部を利用した話題が盛り込まれており、博士後期課程学生の利用促進への期待が高まった。

企業見学会等イベント参加支援(交通費を補助)

- C-ENGINE 学生と企業の交流会
 - 4/26 大阪府立大学 2名
 - 5/9 大阪大学 5名
- C-ENGINE 企業見学会
 - 10/9 日東電工 4名
 - 11/22 ダイキン工業 2名
 - 11/26 村田製作所 7名
- その他の参加支援したイベント
 - 7/24 NAISTジョブサーチセミナー 1名
 - 11/18 NAISTトップセミナー 2名
 - 12/7 理系学生模擬GD 4名
 - 12/20 NAIST JOBFESTA 1名
 - 1/11 C-ENGINE 土曜セミナー 2名

博士キャリア開発支援制度(DCD支援制度)

「DCD支援制度」は博士後期課程学生、博士研究員の就職活動、学会発表の際の交通費補助により博士人材のキャリア開発支援をするものである。

単なる経済支援で終わらずに、就職活動、書類作成や面接対策などの継続的な相談につなげ、対象者のニーズに合わせた支援を心がけている。

- DCD就活支援(面接)
 - ・構造計画研究所 大阪
- DCD学会支援(発表)
 - ・第52回 照明学会全国大会 福岡
 - ・日本植物形態学会、日本植物学会 宮城
 - ・日本家政学会関西支部 兵庫 2名
 - ・Okinawa Colloids 2019 沖縄
 - ・山梨県若手研究者奨励事業成果報告会 山梨
 - ・第10回イオン液体討論会 大阪 ほか

キャリア開発支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax 0742-20-3572

URL <http://cdpd.nara-wu.ac.jp>

e-mail career-k@cc.nara-wu.ac.jp

男女共同参画活動のアピールー自治体・他団体等との連携への取り組みー

◆奈良県・なら男女共同参画週間イベントに協力参加

2019年6月28日(金)～6月30日(日)に、なら男女共同参画週間イベント2019「一人ひとり個性を活かして多様な社会」が奈良県女性センターに於いて開催され、協力参加・パネル展示を行った。

◆第12回奈良先端男女共同参画推進セミナーに協力参加

2019年10月4日(金)第12回奈良先端大男女共同参画推進セミナーが開催され、春本機構長が協力参加した。

◆全国ダイバーシティネットワーク組織・近畿ブロック会議に協力参加

2019年6月20日(木)2019年度第1回近畿ブロックセミナーが立命館大学朱雀キャンパスに於いて開催された。春本男女共同参画推進機構長が「ライフイベントとの両立に向けた研究環境整備」として「奈良女子大学におけるダイバーシティ推進の経緯と現状」というテーマで、「ならっこネット」「ならっこイベント」や教育研究支援員制度について講演した。

2019年11月21日(木)2019年度第2回近畿ブロックシンポジウムが、立命館大学大阪いばらきキャンパスフューチャープラザに於いて開催され、春本男女共同参画推進機構長が協力参加した。

◆南近畿女性研究者支援ネットワークに参画

文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「南近畿からの発信 女性研究者の地平を拓く、未来を創る」(2017年度採択 代表機関 大阪市立大学)で結成された「南近畿女性支援ネットワーク」に参画することになった。

◆奈良ゾンタクラブ理系若手女性研究者奨励賞の設置と第1回選考

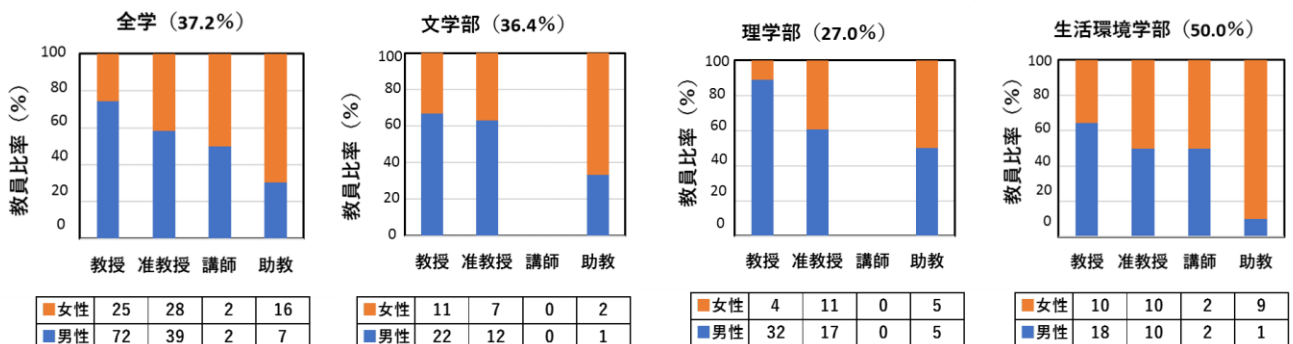
奈良ゾンタクラブからの支援により「奈良ゾンタクラブ理系若手女性研究者奨励賞」を設置した。12月に選考を行い、下村真弥氏(理学部数物科学科)を第1回受賞者に決定した。

奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学の教員数は、2019年5月1日現在で191名。そのうち女性教員は71名(37.2%)である。2005年から14年間に渡る男女共同参画推進機構(男女共同参画推進室としてスタート)のリードによって女性研究者への支援体制が整備され、女性教員比率は徐々に上昇してきた。学部別に見ると、文学部36.4%、理学部27.0%、生活環境学部50.0%となっている。職階別による女性教員比率は、学部によって事情が異なるが、概して上位職階は低く、下位職階にいくほど高くなる傾向にあり、やや改善がみられるものの、14年前と傾向は変化していない。2017年に本学は「女性活躍推進法に基づく行動計画」において、女性教員比率の目標値を38.0%と設定しており、今年度は文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)に採択され、女性研究者の研究力向上、研究環境改善に向けて様々な取組が始まっている。今後成果が期待されることである。

奈良女子大学教員の男女別人数(2019年5月1日現在)

大学全体の女性教員比率37.2%



* 教員は学部にも所属する教授・准教授・講師・助教とした。 ** 図中括弧内の数字は各学部の女性教員比率を示す。

編集・発行：奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先：奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3204 Fax 0742-20-3205

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/>

